



ニュースレター

2015（平成27）年1月31日 グリーフワークかがわ広報部

◆理事長メッセージ◆

新年によせて

喪失と悲嘆の語り～忘れないためでもなく、忘れるためでもなく～

「もう忘れなさいと家族から言われるのに忘れられない」、「忘れたはずなのに涙が出る」、「忘れようとする私は冷たい人間でしょうか」グリーフワークの過程において「忘れる」を巡って苦悩する姿がある。相談場面だけでなく、啓発活動の場面でも「忘れる」について議論になることがある。John.H. Harveyらは、誰もが語るべき喪失のストーリーを持っており、自分のストーリーを自分のものとして語る力を持ち、記憶を抱きしめる（Embracing Their Memory）ことで喪失に順応すると述べている。重大な喪失はそのひとのアイデンティティに深刻な影響を与えるものであり、喪失について打ち明け、語ることが、自分の新しいアイデンティティを理解し重大な喪失に伴う人生の環境の変化へと適応しやすくなるという（引用文献*）。

喪失体験を何度も語ることはいわゆる繰り返しではない。時間をかけて新しいストーリーに書きなおしていく創造的な過程である。社会の中で、語る場をどう作っていくかが課題である。必要なことは、グリーフワークへの理解を深めるための努力であろう。

いま、来年度に向けて公開セミナーの企画の再検討を行い、普及啓発の方法や人材育成のあり方を議論している。グリーフワークを理解するためには概念の解説に留まってはならない。対話と演習を重ね、地域で活動する関係者とどう繋がっていくかが鍵になる。企画を練る時間を惜しまず私たちの使命を果たしたい。

私たちは生活のさまざまな場面でいろいろな役割を引き受けて生きている。喪失は折り重なるように起きる。死別だけでなく人それぞれの事情による喪失とそれぞれの悲嘆の姿がある。喪失と悲嘆に寄り添い、その人のストーリーに新しいアイデンティティを発見していく過程の立会人となれる人の輪が広がり、互いに支え合える社会づくり、それが私たちの目指すところだ。グリーフワークとは、「忘れること」でも「忘れないこと」でもないという理解が浸透していくことを目指したい。早く忘れるようにとせかされて傷つく人を一人でも減らし、語る機会が閉じられないようにしたいと思う。

今年もグリーフワークかがわへのご支援をよろしくお願い申し上げます。

2015年1月20日

特定非営利活動法人グリーフワークかがわ
理事長 杉山洋子

*引用文献：ロバート・A・ニーマイヤー編，
富田拓郎，菊池安希子 監訳
喪失と悲嘆の心理療法—構成主義からみた意味の探求— 2007年

☆報告☆

“高松市男女共同参画市民フェスティバル” 2014 年も参加しました！！

○ワークショップ

「東日本大震災から3年半、被災地とともに歩む」のテーマでワークショップ（第17回公開セミナー）を開催しました。

日時：2014年11月29日(土) 14:00～16:30

場所：高松市男女共同参画センター第8会議室

企画：NPO 法人福島の子どもたち香川へおいでプロジェクト、香川こどもといのちを守る会、NPO 法人グリーンワークかがわによる共同企画

参加者：37名

2011年3月に起きた東日本大震災。それから早くも3年半が経ちました。その間、被災地ではどんなことが起き、どのようにして今にいたるのか。被災地でさまざまな活動を続けている岡内真理さんを講師に迎え、その現状をお話していただきました。

岡内真理さんは、福島県の北隣、宮城県山元町出身で、震災時は宮城県の医療生協に勤務、震災後は退職して、山元町で被災者支援や子どもたちを放射能から守る活動などに積極的に取り組んでいらっしゃいます。

岡内さんのお話から、家族も家も失いひとりぼっちになってしまった方の心の機微等、実際にその場で活動を続けていないと分からない厳しい現実の数々を教えていただきました。

少しでも現状を知ることの大切さと同時に、どんな状況でも決して諦めず、人の気持ちに寄り添いあくまでも明るく前向きに活動している岡内さんの姿にこちらが励まされる思いでした。

なお、今回3つの団体が共催することで広く告知でき、新しいつながりができたこともよかったですと思います。（記録：香川こどもといのちを守る会 末川氏）



セミナーに参加して…

植田 夕香

震災を映像で見聞きし、状況はそれなりに知っているつもりだったのですが、自然災害が極めて少ない香川県に暮らす私たちには実体験が少ないためか、うわべだけしか理解できていないのでは？という自身へのジレンマがあったのも正直なところでした。

家や車、家族や親せきを失った大勢の人々。そして、自分のところまでも失いかけた人さえいるという…。講師が語られたことの全ては、目の前でおこった逃れようのない現実であり、未だ過去ではなく現在進行形の状況なのです。

3年半の月日は経ってしまったけれど、この震災を遠い地の出来事ではなく、私たちの身近な出来事と捉え、GWKでも被災地と被災者の支えとなれるよう何か具体的な行動へ結び付けることができれば…と感じたのでした。

○パネル展

テーマ「地域で支えるグリーンワーク」

日時：2014年11月19日(水)～25日(火) 9:00～17:00

場所：高松市役所1階市民ホール

この世に生きている以上、
喪失体験は誰にでも身近におこりえます。
市民の身近な存在となれるよう
「地域連携」「地域協働」を目指し
今回もパネル展に参加しました。



◆2015年1月11日 第72回 理事会開催◆

《報告事項》省略

《審議事項》

第1号議案 2015年度公開セミナーに関する事項

香川県共同募金会からの助成を受けて行う。公開セミナーを地域の関係機関、関係者との連携を強化していく場として、インタビュー形式でグリーンワークを軸として語りあう場とすること、5月、7月、9月、11月の4回セミナーを行い、4回の公開セミナー講師によるシンポジウムを年明けに開催することで了承された。

第2号議案 認定NPO法人取得申請に関する事項

塩田事務局長を中心に香川県県民活動・男女共同参画課を訪問し申請内容の修正を確認することで了承された。

第3号議案 地域連携強化に関する事項

年度内に限定せず継続的に取り組むこと、2015年度公開セミナーの企画、運営そのものを地域連携を強化する場として機能させていくことで了承された。

第4号議案 2015年度香川県自殺予防関連事業の情報収集に関する事項

県障害福祉課長との面談を行い、自殺対策におけるNPOの役割について説明し、官民協働で取り組んでいく意義について話し合うことで了承された。なお、厚生労働省の自殺対策事業について、今年度は申請を見送ったが、今後情報収集を行い、活用について検討する余地があるとの意見があった。

第5号議案 グリーンカウンセラー資格認定申請に関する事項

締め切り後に届いた申請の対応について審議し、次回の認定面接について決まりしだいお知らせする内容で通知することで了承された。

第6号議案 広報に関する事項

ホームページ管理者から、HPアクセス解析の報告があり、アクセス数を増やすための方法について検討していくことで了承された。

◆2015年1月18日 第29回 相談担当者会◆

審議事項（抜粋）

- 1 土曜ホットラインかがわの情報が、必要とする人に届くように広報の方法を検討する必要がある、理事会での審議事項に挙げることになった。
- 2 2015年度公開セミナー、シンポジウムについては理事会報告があり地域連携強化の場として機能させていくこととなった。
- 3 2014年度のグリーンカウンセラー認定作業が進められており、3月15日に新メンバーを加えて相談担当者拡大会議を開催することとなった。